

ウエルハーネスだより

227号

理事長からのことば

あつという間に桜の季節が終わりました。今は葉桜。皆さん、花見には行かれましたか。

今年は気候の影響か、咲き始めはあまりきれいではありませんでしたね。でも満開を迎えるころになると、例年通りのきれいな桜になっていました。最近では、あと何回花見ができるのだろうか毎年思います。1回でも多く見たいとは思いますが。

さて、最近思うのが、地方自治体の財政力に大きな差があるということ。そのため受けられるサービスにも大きな差があります。皆さん、東京都が裕福なのをご存知だと思います。

例えば、保育園に通う第二子無料化に引き継ぎ、今年の9月からは第一子も無料になります。介護職員及び介護支援専門員に月1万円（勤続5年目までの職員には1万円を加算）、都内医療機関での無痛分娩する場合最大10万円補助等々。サービスの格差は住民には一切の責任はありません。ただ地域の特性によるものだけが原因です。これだとますます東京への一極化進んでしまうと思うのですが。

そんなことを感じている時に、ふと読んだ素敵なコラム（北日本新聞 天地人）をご紹介します。

デイサービスで何をしているのと年老いた母に聞くと「しゃべっとんが」。友人がいるわけでもないが「こんだけ生きとれば話題はあるちゃ」。ただし女同士に限る。男は？と尋ねると「来とる人が少ないし、だいたい黙っとる」。

母の周りだけかもしれないし、性差で語れるものでもない。でも上市町出身の上野千鶴子さんもラジオで同じように述べていた。大半の夫は定年になると妻しか話し相手がおらず、集まりや催しにも出て来ない、と。現役時代を指し「あんなにつるんでいたのに何なんだろう」。

社会学者だけに分析が鋭い。男は利害関係のない仲が苦手な上下を決めたがり、女はフラットな関係で弱音を吐きあえる。だから地域の集まりは女が先んじており、定年後の男は仲間に入れてもらったらと指南する。そのための「男の七戒」もつくった。

上尾市向山1-14-7
社会福祉法人 竹柿会
TEL：048-782-0575
FAX：048-782-0590
令和7年4月25日発行

①前歴 ②家族 ③学歴について言わない、聞かない。これで三つ。残りは④金の貸し借りをしない ⑤先生や会長といった集まりの役職で呼ばない ⑥上から目線で話さず、場を仕切ろうとしない ⑦特技を自ら言わない。求められた時にだけ。

七つを聞き、うなってしまった。どれも年を取ったらやりそう。聞き直してメモをとりつつ、はたと思う。これは定年後に限らず、男にも限らない。いろんな集まりでごくしゃくせずにコミュニケーションする際の戒めになるのでは。

確かにそう思います。人とコミュニケーションを取るのが苦手な方ですし、今までの職業柄、「先生」とか「理事長」とか呼ばれることが長いので、つい上からの話し方になりがちです。この「七戒」を心がけてみたいと思います。

4～5月の行事

4/15にご入所者様の健康診断がおこなわれました。

デイサービスでは桜のお花見や制作等さまざまなレクリエーションがおこなわれました。また、バイオリン演奏やマリンバ演奏のボランティア様にもお越しいただきました。

特養では、お茶会やお散歩レク、お誕生日会等のレクリエーションがおこなわれました。

5～6月の予定

5/5にこどもの日の行事食を召し上がっていただく予定になっております。

デイサービスでは、運動会や制作等さまざまなレクリエーションを企画しております。

特養では、お誕生日会等さまざまなレクリエーションを企画しております。

4月の行事食



お茶会&お誕生日会



お散歩



制作



おやつ工房

